

直方ミニバスケットボールクラブだより

よき日のために、今、できることを・・・



毎日あたりまえのように活動できていたことができなくなったとき、バスケがしたくてたまらなくなっていた日々。

毎日あたりまえのように活動できるようになった今、学校も始まり、練習がしんどく感じる時もある。気持ちがのらない日もある。

でもいつまた活動を止めなければならなくなるかわからない。あたりまえにできるものができなくなったときのことを思い出す。できるときに、できることを...

日々の活動をルーティンとして毎日こつこつ積み重ねることが力になる。イチローや田臥勇太など、多くの一流選手が大切にしている日々のルーティン。毎日同じことをしているから、体調やプレーの変化、異常に気づくことができる。気づけば、改善方法を考え、対処することができる。

活動はできるようになったが、以前と同じようにはできない。でもときどき、刺激がほしい。おもいきり自分の力を試す機会、素晴らしいプレーを目の当たりにする機会など。コロナ禍でスポーツをしている多くの選手が思っていることだろう。

コロナ問題は、ワクチンと治療薬の開発によって、遠からず必ず終息の日を迎える。そのためのために、今は根気よく力を蓄えていこう。その蓄えた力が発揮できる日は必ずくる。



交流活動（合同練習）

8月に続いて、今回2回目の合同練習になります。前回は、今年度はじめての交流活動であり、コロナ禍での交流でしたので、双方に多少硬さがありましたが、今回は2度目ということで、前回よりも充実した内容になることを期待しています。

今年度は、各地、未だ大会が実施されておらず、目標を設定しにくい状況が続いています。このような交流活動が、子どもたちのモチベーションをもたせるのにとっても貴重な機会になります。ここのところ少し中だるみしていた活動に刺激が加わることで、励みになるのではないかと考えています。以下は、前回の交流活動後の『たより』に掲載していた文章です。

交流によって育つ力

8月9日（日）には、久しぶりに他チームとの合同練習を行いました。コロナ禍ですので、環境、時間、活動内容・方法等に配慮しながらの活動でした。それでも、やはり時折、このような交流場面の必要性を実感しました。プレーの交流による学びはもちろんですが、プレー以外に大切にしなければならないことがあるということを、ともに直方市内で活動しているなかまとともに共有することに大きな意味があります。子どもたちの活動は、小学校で終わるわけではなく、中学校でいっしょになって活動する可能性もあります。同じ学校・チームではなくても、試合等で交流する機会もあるでしょう。高校でいっしょになることがあるかもしれません。同じ時代を生きる子どもたちが、何を大切に活動し、どんな進路選択をし、どんな生き方をしていくか、いい意味で大いに影響し合って成長していってくれることを期待しています。

今回の交流活動で、子どもたちが相互に何を感じ、何を学びとすることができるか、楽しみです。日々の活動を6年生がリーダーシップをとりながら、確実に前に進めてくれるようになっていく今、通常とは違うこのような交流活動では、どのようなリーダーシップをとることができるか、雰囲気に関わることなく、前回うまくできなかった“気づき”と“行動力”に期待しています。

